

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000161		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 八戸ノ里(ユニット1)		
所在地	大阪府東大阪市下小阪4-4-13		
自己評価作成日	平成24年6月6日	評価結果市町村受理日	平成24年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・個別ケアに重点を置き利用者様のニーズに添えるように支援をしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設2年目を迎える当該ホームは、法人の理念でもある“現場第一主義”をホームで実践できるように、管理者は職員の意見が言いやすいよう会議だけでなく日常的にも話を聞く姿勢を持ち、風とおしの良い関係の下意見を出し合いながら日々の支援に取り組んでいます。利用者のその時の思い思いに過ごせるよう、又職員との会話を楽しめるよう、リビングのコーナーにテーブルやソファ、椅子が工夫し配置され、食事や掃除等生活の場面で利用者の力が発揮できるように支援し、利用者は和やかに過ごされています。地域との交流も徐々に取り組んでおり、小学校の運動会や地域の祭りを見に行き、今後更に保育園との交流や地域に出掛けていきたいと考えられています。また法人として研修の機会が多く設けられ、職員のスキルアップに繋がっています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を見えるところに提示している。	法人の理念は玄関に掲示され、ホームとして「現場第一主義」という法人の方針を大切に、職員の意見を吸い上げ、どのようなホームにしたいかなど話し合いを重ねて、実践に繋げるように努めています。まだホーム独自の理念を掲げるまでには至っていません。	法人の理念の基に、目指すものを職員全員で話し合い、ホームの独自の理念として掲げられてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域のイベントには行ける範囲で参加している。	祭り際には近くの施設にだんじりを見学させて貰いに行ったり、小学校の運動会に応援に行くなど、地域との交流の機会を作っています。散歩の途中に地域の人達と挨拶を交わし、日々の交流に努めています。また、自治会や地域の行事にも積極的に参加していきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・イベント等で職員も参加しているので支援の方法も少しずつ理解を得られてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議での意見は率直に受け入れ、改善し報告している。	家族や地域包括支援センター職員等の出席のもと、2ヶ月に1回運営推進会議を行っています。家族の出席が増えてきており、イベントの写真を見てもらいながらホームの活動報告を行い、要望や意見も多く聴ける有意義な会議になっています。	自治会長、民生委員等の地域の方の参加を課題とされており、出席が得られるよう取り組み、より一層充実した会議になることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・出来る限り市役所に訪れるようにし、市の開催する集団指導等の研修に参加している	市役所の担当職員には、介護保険更新時等に直接出向いた時に、相談をしたり情報を貰う関係が築かれています。また、市から研修の案内等の情報を貰い、参加しながら協力関係が築かれるよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修等に参加し職員に伝達し互いに身体拘束の意識を高めている。	管理者は身体拘束をしないケアについての法人の研修を受け、職員に伝達研修を行い周知するよう取り組んでいます。玄関は施錠していますが、家族に了承を得て、出たい様子があれば一緒に出かけ利用者が拘束感を感じないように支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修等に参加し職員に伝達し互いに虐待防止の意識を高めている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・希望等があるときは資料や支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は入居者や家族が納得するまで話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議で意見が出ればその都度、改善をしている。	面会や運営推進会議の時、更に便りや連絡帳を利用し家族とのコミュニケーションをよくとり、意見や要望を聞く機会を多く作っています。十分な水分補給や清掃について等の意見がみられ、担当者だけでなく皆で気をつけるよう、話し合いが成されケアに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の職員会議や日2回の申し送りで意見を聞き提案している。	朝夕の申し送りや月1回の職員会議を始め、日々思い付いた時に職員は意見や提案をしています。管理者は法人理念でもある“現場第一主義”を大切にしており、職員の意見をもとにカンファレンスを行い、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・定期的な訪問、人事考課、ほめカード、従業員満足度アンケート、により職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内で年間研修計画を立て研修をしている。外部の研修参加も推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進委員会に地域包括センターの職員に参加してもらい意見交換している。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に面接で本人のアセスメントを行い、性格や生活歴を把握し安心感が持てるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族より困ってることや要望に沿って関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人と家族にとって最良のサービスを家族・本人と話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・人生の先輩として学ぶことが多く、意見を参考にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と本人の関係を把握しより良い関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望・要望により馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	散歩の時に以前務めていた幼稚園に出かけ懐かしんでもらったり、知人からの電話連絡等の取次ぎ等を支援しています。家族の協力を得て墓参りに行ったり、年末年始に自宅へ外泊や外出できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話の橋渡しなど行い孤立しないように努めている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後も希望がある時は相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添うように努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	入居時に本人家族に聞いた基本情報から、生活歴や趣味等を知り、入居してからは日々の関わりの中から意向の把握に努めています。把握の困難な場合には、職員がカンファレンスでそれぞれの情報を持ち寄り、情報を共有して一人ひとりの思いを検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や生活環境をアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事の能力の把握し自尊心を傷つけないような支援を努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見が出た場合は家族や本人と話し合い、施行し適している場合は介護計画に反映している。	家族や利用者の意向を踏まえ、医師や看護師の意見も聞きアセスメントを行い、介護計画を作成しています。毎月カンファレンスでケアを見直し、3ヶ月毎に評価し見直しにつなげています。日々の記録と計画が連動できるように徐々に取り組み、実践状況を把握しやすいようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、申し送り時に気づいた事等、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や精神的に日々若干異なるのでその都度対応を変えている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を散歩や買い物をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に2回の往診がある。	入居時にかかりつけ医を継続出きる事を説明していますが、協力医は2週間に1回往診があり、24時間連携が取れる体制が整っていることもあり、殆どの方が協力医に変更されています。訪問歯科も受ける事ができ、皮膚科等の他科受診の場合は家族に受診対応してもらっています。状況に応じてホームの職員が同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い体調の変化があれば往診医に相談し受診する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族に様子を聞き早期に退院出来るように病院に働きかける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・かかりつけ医や家族と連携し方針を決めている。	入居時に継続的に医療行為が必要な場合には、ホームで対応出来ないと家族に説明しています。法人としては看取りも支援していく方針であり、条件が整えばホームで支援できるよう取り組みたいと考えています。今後ホームの体制を整えていきたいと考えられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急マニュアルをつくりその都度、事故報告書については対応を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い全職員が対応出来るように努めている。	避難訓練は、年2回消防署の立会いの下実施しています。消火器の使って初期消火、通報のシュミレーション等、昼夜を想定して行っています。地域への働きかけはまだ行えておらず、今後の課題となっています。	自治会長や民生委員にホームを知ってもらえるよう働きかけて、地域との協力体制を作るきっかけとされては如何でしょうか。

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴などを把握しその人にあった又自尊心を傷つけない言葉掛けをしている。	職員は接遇研修を受け敬語で話す事を基本としています。親しい関係が築かれて言葉遣いが乱れないよう、尊厳を持った言葉使いや対応しています。利用者にわかりやすい言葉を選ぶ場合もありますが、不適切な対応があれば、管理者が直接注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望などは取り入れている。又自己決定できにくい人は選択できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先にその人にあった過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容師が希望のある入居者のカットや毛染めをしたり、着替え時に声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食事作り等は入居者と共に行い、共に食事をしている。	業者の作ったメニューで食材が届き、出来る人には、野菜切りや味付け、盛り付け等に携わってもらっています。ラジオを聴きながら、職員も同席し楽しい食事時間となるよう支援しています。ホームで収穫した野菜を使ったり、誕生日には職員がケーキを作ったり、イベントの時は利用者の希望を聞いてバイキング等を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後・起床時・就寝前は口腔ケアを行っている。		

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に排泄の頻度を記入し声掛けや誘導を行なっている。	排泄チェック表で個々のパターンを把握してトイレに誘導しています。個々の利用者に合わせて誘導することで失敗が減り、紙パンツから布パンツにへ換え自立に向けて支援する中で、自らトイレに行こうとする利用者も増えてきています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に排便時を記入している。便秘時はDrの指示で下剤等を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが本人の希望を取り入れ柔軟に対応している。	入浴は週3回を目処に、利用者の1日の暮らし方を考慮して10時30分から16時までと決めています。時には柚子湯や菖蒲湯を楽しんでもらっています。拒否傾向の人には時間を換えたり、家族にも声を掛けてもらう等工夫しながら入って貰っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝状況に応じ個々の対応に従った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備の分担をして張り合いのある日々を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入浴のない日や行けるときに臨機応変に出掛けている。	毎日近くの公園へ散歩に出かけています。大型量販店に買物に出かけたり、コーヒーを飲みに出掛ける等個別にも外出の支援をしています。イベントとして、司馬遼太郎記念館に出かけたり、初詣や花火、小学校の運動会等にも行き、外出の機会を多く作っています。	

グループホームたのしい家八戸ノ里(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持ちたい人は家族に同意を得て持ってもらい職員が残金を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように壁に木を作り入居者と共に季節の風物や花を飾っている。	利用者のその時の思い思いに過ごせるよう、又職員との会話を楽めるよう、リビングのコーナーにテーブルやソファ、椅子が工夫し配置されています。空気清浄機や加湿器を配置したり、こまめに換気を行い心地よく過ごせるよう、配慮されています。観葉植物や季節の花を飾ったり、手作りの壁飾りを行い、季節を感じられるように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し気の合った同士で話をしたり一人でテレビを見ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人の要望を取り入れている。	表札代わりに折り紙の花などで、自分の居室が分かるように工夫されています。今までの慣れ親しんだ物を持ってきてもらうように伝え、タンスや絵、家族の写真などが持ち込まれ、家族に聞きながら以前の暮らしに近い環境になるようにし、居心地よく過ごせる様に配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どこまで出来るかを把握し、どうしたら出来るかなどを考慮し支援している。		